

平成28年度「学校におけるHIV・エイズ、性教育講習会」 ～エイズのはなしを広めよう LGBTの理解と共に～ アンケート結果

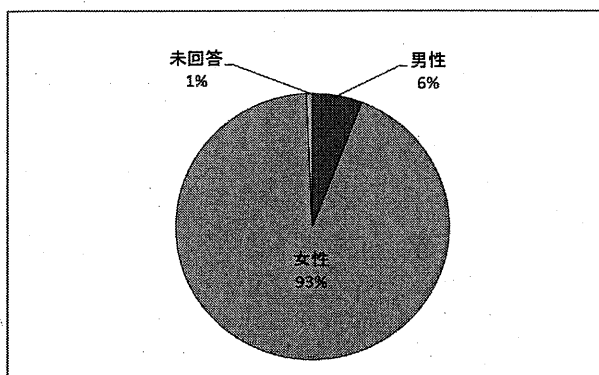
平成29年2月13日に特定非営利法人 HIVと人権・情報センターのお2人を講師にお招きし、講習会を開催いたしました。

たくさんの先生方にお越しいただきありがとうございました。

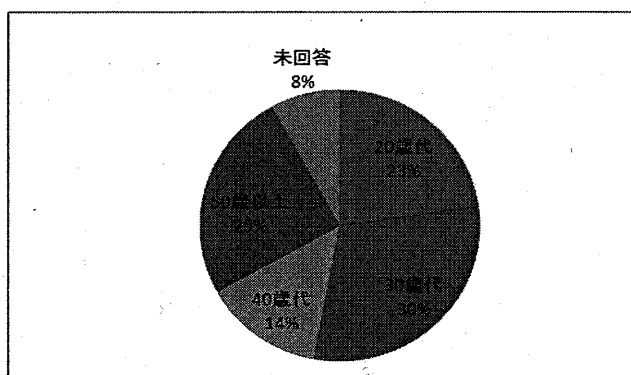
大阪市保健所 感染症対策課 06-6647-0656

参加者数 159人
アンケート回答者数 136人 回答率 85.5%

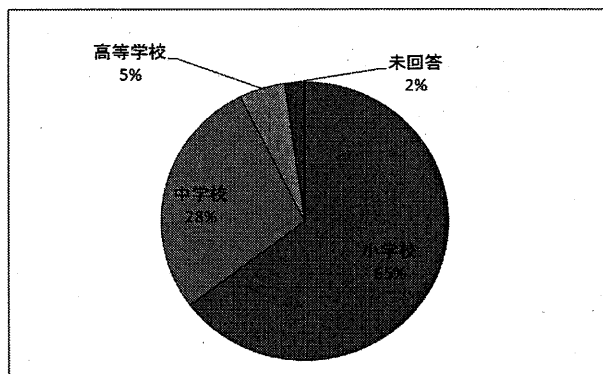
受講者の性別



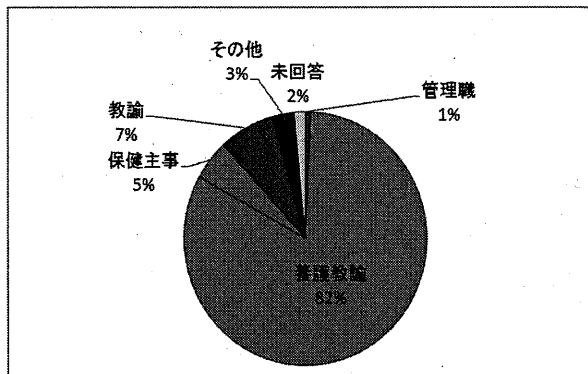
受講者の年代



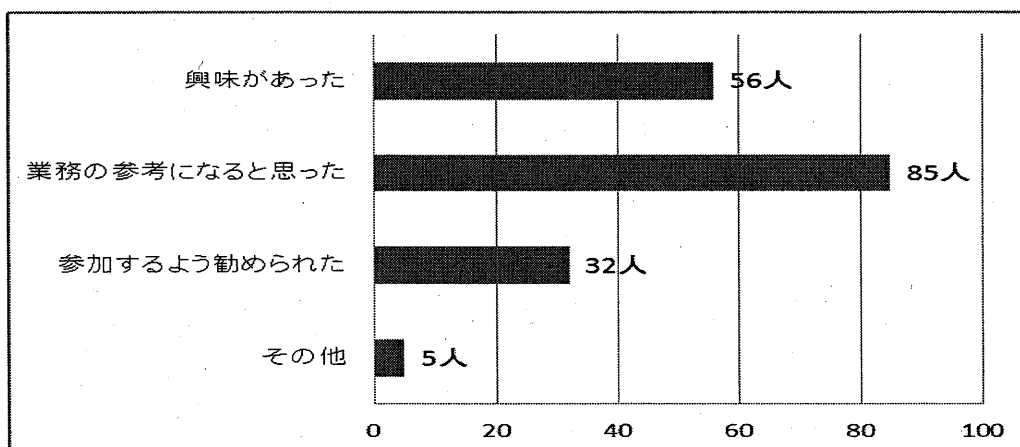
受講者の校種



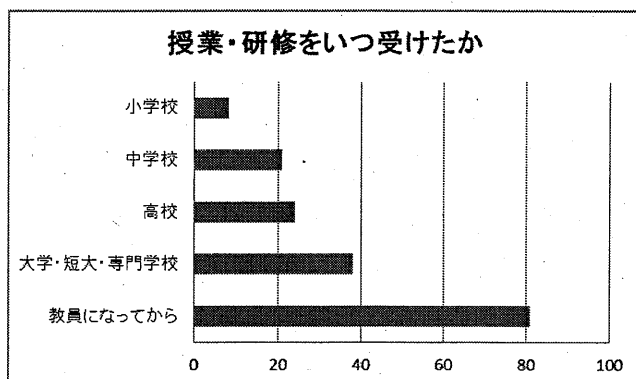
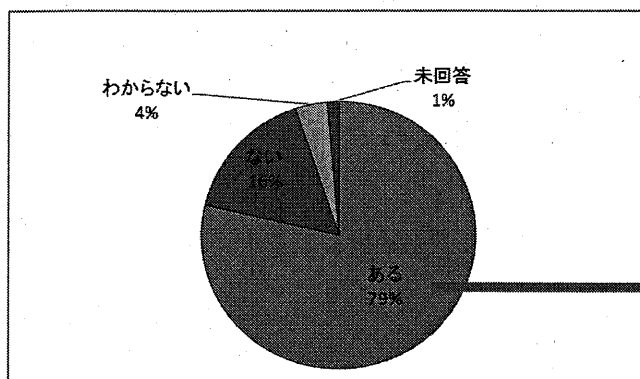
受講者の役職



今回の講習会に参加しようと思ったきっかけは何ですか(複数回答)



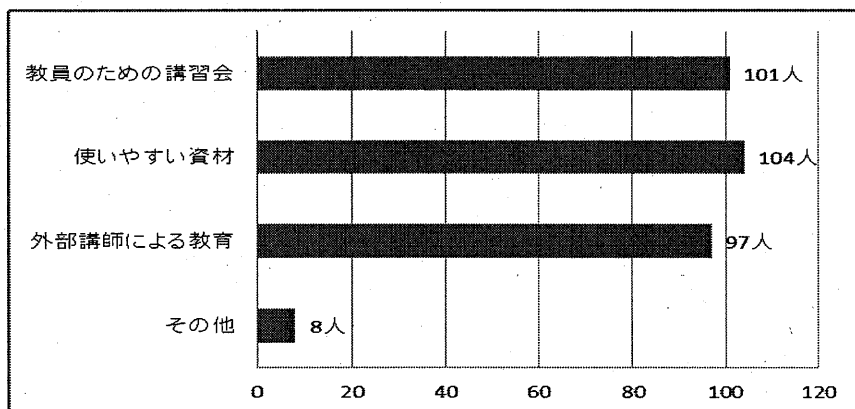
これまで、HIV・エイズに関する授業や研修を受けたことがありますか



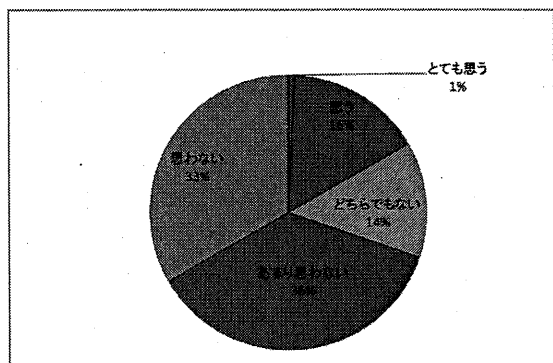
HIV・エイズに関する知識

	136人中	正答数	正答率
HIVに感染したヒトは全員エイズを発病する		128	94.1%
免疫機能が低下すると、感染症や悪性腫瘍(がん)にかかりやすくなる		123	90.4%
食器の共用や入浴、一緒にプールで水泳することでHIVに感染することはほとんどない		124	91.2%
HIV感染の予防はコンドーム使用がきわめて有効である		128	94.1%
大阪市では匿名・無料でHIV検査(エイズ検査)を受けることができる		121	89.0%
通常のHIV検査では、感染から2〜3か月経過しないと感染しているかどうか分からない		66	48.5%
HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった		127	93.4%
最近では、HIV感染者やエイズ患者への偏見・差別的な事件はまったく起こっていない		123	90.4%
HIV感染者やエイズ患者は、対人関係の悪化や孤独といった心理的な苦しみを生じやすい		126	92.6%
自分が感染症にかかっているときは、エイズ患者等免疫力が落ちている人が周囲にいる可能性を考え、うつさないよう気をつけるべきである		126	92.6%

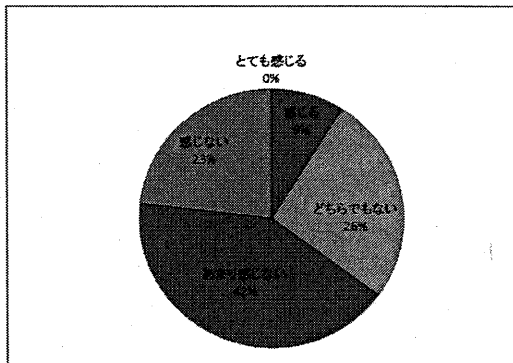
学校でHIV・エイズ、性教育を実施するために必要なことは何ですか(複数回答)



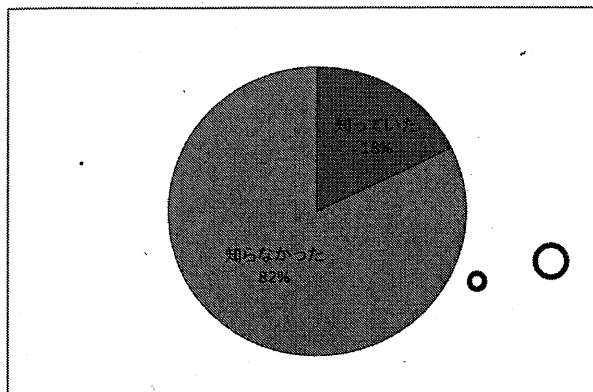
あなたの学校ではHIV・エイズ、性教育は十分行われていると思いますか



あなたの学校ではLGBTに配慮した教育ができていますと感じますか

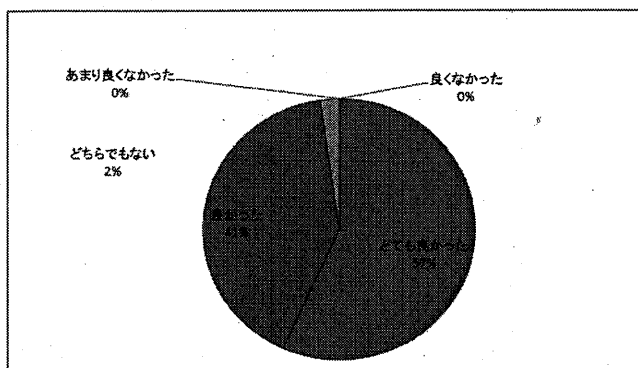


エイズ啓発講座の講師派遣事業を知っていましたか

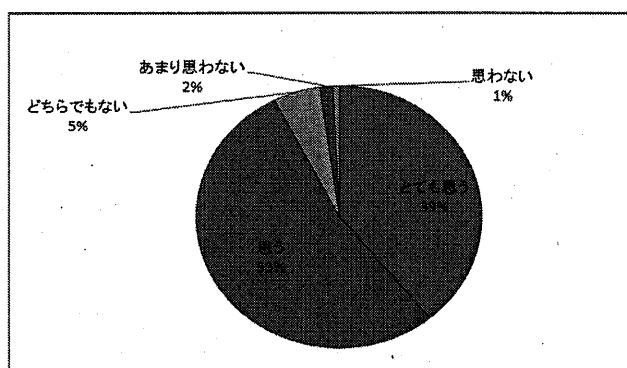


講師派遣事業について、詳しくは、大阪市保健所までお問い合わせください。

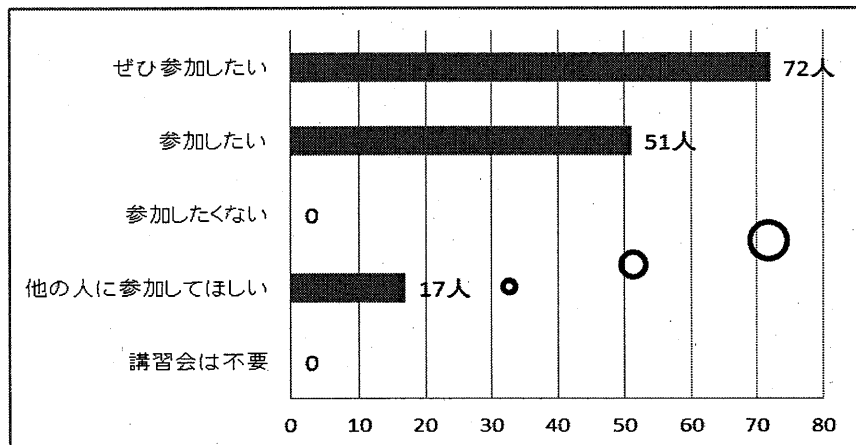
本日の研修はいかがでしたか



今回の講習会の内容を生徒の教育に活かそうと思いますか



今後も、このような講習会に参加したいと思いますか



管理職や一般教員に参加してほしいという意見が多数ありました。

印象に残ったこと・参考になったこと

- ・具体的な模擬授業で行ってもらえたので、学校での実践に活かしていきたいと思った。
- ・具体的な教材・グッズの紹介がわかりやすかった。
- ・性は「色見本」と似ていて連続したものであり、グラデーションであるということがわかった。

HIV・エイズ、性教育に関する悩みや難しい点

- ・校内で教員の温度差があり性教育を進めるにあたり難しく感じる。
- ・性行為やコンドーム等の内容を扱うことについて、理解を得にくい。
- ・学習指導要領以上の内容に踏み込めないで、どこまで伝えるか難しい。

今後、講習会で取り入れてほしい内容

- ・性教育の教員向けの講習会や研修をたくさんしてほしい。
- ・LGBTに関する話を増やしてほしい。

本講習会は、養護教諭だけではなく、学校教員全員を対象としております。ご参加お待ちしております。たくさんのご意見・ご感想ありがとうございます。